

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月20日

【評価実施概要】

事業所番号	290400019		
法人名	社会福祉法人報徳会		
事業所名	黒石ケアサポートセンター		
所在地 (電話番号)	〒036-0537 青森県黒石市赤坂字池田136番地 (電話) 0172-59-1135		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成20年11月21日	評価確定日	平成21年1月20日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	18人, 非常勤 0人, 常勤換算 17人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	一部2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	11 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.1 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	現在、協力医療機関の機関として辞退があり、あらたに協力医療機関を検討中
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に中でその人らしく生活できるように、法人共通の理念である「和・話・笑・我・輪」を理念としている。開設し2年になるが日々の生活を意欲的に生活できるよう、職員一人ひとりが理念に基づき意欲的に支援している。利用者の生活状況を細かく把握し記録され、ケアに反映されている。ホームの概観は「黒石のこみせ」をモチーフにし、落ち着いたリビングからは岩木山や田園風景が一望でき、四季の変化を感じることが出来る。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で受けた改善点は職員全員で話し合い、検討・改善がされ、概ね反映されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ホーム全体で自己評価の意義を理解し、理念に基づきケアの改善に取り組んでいる
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の持つ意義を理解し、平成20年4月に実施し、家族や民生委員、行政、社協の職員が参加し、意見交換を行ったり助言をいただいたりしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) 苦情処理解決に対する姿勢保持は明確で、玄関には要望箱が設置されている。主に家族の面会を軸に電話での対応や、地域や家族と積極的に関わりサービスへ反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 本体施設が主体となり、グループホームの役割を果たしている。年に数回ある法人全体の行事で地域の方と関わっている。ボランティアや地域の防災協力委員とも協力関係にある。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安心して地域で暮らすことを念頭に入れた「和・話・笑・我・輪」を理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念である「和・話・笑・我・輪」をモチーフにし、利用者とともに作品を作成し、また会議などの場でそれぞれの文字に含まれる意味を話し合い、理解を深めている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	本体施設主催の納涼祭にホームが地域の一員として参加し、地域住民と交流を行ったり、地域の農家の方がさくらんぼ狩りにホームの利用者を招待したり、交流が図られ、地域に溶け込んでいる。また地域の集会場的な場所をホーム内に準備し、地域住民に利用してもらう計画をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回評価後、全職員で評価内容を話し合い改善に取り組んでいる。自己評価も全職員から意見を吸い上げて作成しており、評価の意義を理解している。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>平成20年4月に実施し、家族や民生委員、行政、社協の職員が参加し、意見交換を行ったり助言をいただいたりしている。その後は調査時点(11月)まで実施されていない。</p>		<p>早急に開催出来るよう期待したい。</p>
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>本体施設内に地域包括支援センターのランチ施設が設置されていることもあり、随時市担当職員が訪問され、多様な課題について話し合いをもうけている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>実際に必要とされそうな利用者が入居中であり、遠方のご家族と何度も話し合いが持たれている。それに伴ない職員間での話し合いも盛んである。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ホームで標準的ケアというマニュアルを作成しており、その中に虐待についての内容を盛り込んでいる。新規採用から随時標準的ケアについて研修されており理解している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>事前の見学から実際利用するに至るまで、段階的に重要事項説明書を用いて説明している。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム便りを季節ごとに発送し、ホームでの暮らしぶりを報告している。また毎月の請求書に金銭管理状況などを同封し、報告している。通院時は都度連絡している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や電話連絡時などに状況報告を行い、それに対する意見など、いろいろな意見を吸い上げるように働きかけている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>一定の職員との関係だけにとどまらず、ホーム全職員で関わることにより、職員の異動によるダメージを軽減している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人規定の職員育成・研修に関する規約がある。新採用時・中堅・リーダー職に分類し、研修を実施している。その他資格取得に関しては勤務調整などでバックアップされている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所自らの関わりは少ないが、本体施設が加入する団体を軸に、他事業所への訪問、情報交換が行われている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始までの間に、事前の見学など段階的に馴染んでもらえるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	清掃や食事の盛り付けなど職員とともにいき、夏季では畑作りを行い収穫、漬物作りなど利用者の得意とすることを一緒に行うことで、職員が色々な知識を学び、利用者が支えるという機会を設けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	センター方式を徐々に取り入れ、利用者個々の意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	入居前の見学や入居時意向の確認を取っている。その都度変化するニーズの把握のために一部センター方式を利用し、ケアプランに反映している。センター方式の勉強も同時に進んでいる。		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	定期的なプランの見直しの他に、心身状況の変化にともない即対応を変えなければならないと判断した場合は、職員間で話し合い支援し随時プランを見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	随時の外出や通院など、状況に合わせ柔軟に対応している。また併設施設の行事に参加するなど併設施設を利用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームとしてのかかりつけ医が現状不在であるが、利用者が入居前からのかかりつけ医院と本人との関係を大切に、引続き通院している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本体施設のバックアップもあり、利用者の状況変化に基づき随時家族等を含めた話し合いを行い、全職員で方針を共有している。変化があれば、サービスの変更も視野にいれ調整している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	標準マニュアルに基づき基本姿勢から実際の介護の場面においても尊厳を持った対応ができるように工夫されている。個人情報の管理の取り組みも実施中である。		共有されるトイレのカーテンは排泄時のプライバシー保護には不十分である。ハード面のみならず創意工夫で十分効果が得られるので次に期待したい。
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ペースに合わせ日々過しており、外出の希望があれば随時対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>畑作りから調理までのプロセスを楽しみ、利用者も大変喜んでいる。日々の食事では職員は介助、見守りに重点を置いている。</p>		<p>食事は利用者の楽しみの一つとしてとらえ、利用者だけでなく職員も一緒に食事をして楽しい時間を支援するよう期待したい。</p>
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>一定の曜日は決まっているが、希望浴を取り入れている。また併設施設の大浴場でリフレッシュする機会を設けるなど、併設施設の方々との交流を通じ、入浴が楽しめるように工夫されている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者の生活歴より個々の趣味を把握し裁縫や編み物、お茶会などを行い楽しみを持っていただいている。また日々の役割として清掃や食事の盛り付けなどを行ってもらっている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>外出の希望があれば随時対応している。また、対応しかねる場合は後日希望に添えるように配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>標準的ケアに内容が含まれており、随時研修を行い、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>標準的ケアに従い玄関の鍵は、夜間帯の防犯の意味を持った施錠以外は行ってない。また、外部からの来訪者にも掲示し周知されている。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>地域の協力員と合同で防災訓練を年2回行い、有事に備えている。また「0」のつく日は地域の防災協力員にホームへ巡回に来てもらっている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>日々摂取量をチェックし、健康状態の把握に努めている。また献立も併設施設の栄養士が作成しバランスが取れている。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>標準的ケアに含まれており、玄関にアルコールを設置し、訪問者へも噴霧を促して予防に取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>部屋全体が採光に優れ、色々な場所にソファが設置され利用者それぞれが自由に休んだりできる空間となっている。またリビングから見える田園風景が季節感を感じさせている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室も畳部屋であり、非常に過しやすく温かみを感じる。家具や馴染みのものを持ち込みも自由で、居心地良く暮らすための配慮がされている。</p>		

 は、重点項目。